

経営者から学ぶ生きた理論 「現代経営研究会」を開催

東洋学園大学大学院

東洋学園大学大学院（東京都文京区）は1月18日、株式会社資生堂（本社東京・中央区）の代表取締役会長・前田新造氏を講師として迎え、「現代経営研究会」を開催した。

同研究会は、現代の経営上の諸問題について研究し、生きた経営のノウハウの蓄積を目的として、2008年に設立。元財務大臣の塩川正二郎氏や株式会社良品計画（本社東京・豊島区）の代表取締役会長・松井忠三氏など経営に関する有識者を講師として迎え、毎年6回ほど実施されてきた。2011年度は今回で5回目となる。

冒頭、挨拶に立った学校法人東洋学園・江澤雄一理事長は同研究会の意義について「経営は実践的な側面が強い。企業経営者の方々から実際の経営の考え方やその成果についての話をうかがうことが非常に重要だ」と語った。

前田氏の講演は、「資生堂のグローバル戦略」その軌跡



資生堂の中国市場展開について語る前田新造会長

と新たな挑戦」の表題のもと行われ、同社のグローバル戦略において、中でも特に2004年度より毎年二ケタの売上成長を遂げている中国市場での取組みを中心に語られた。

資生堂では、1981年より中国市場への進出を開始。当初は、大規模なビジネ

スを展開するのではなく、中国の国営化粧品会社への生産技術提供などを通して同社の高品質イメージの確立やものづくりへの思いを定着させ、中国からの信頼を得ることに徹したという。その後は、現地生産による中国専用ブランド「AUPRES」の販売や、日本からの優秀なビューティーコンサルタントの派遣などを展開。前田氏は、これら一つひとつの事業を丁寧に我慢強く、かつ中国に根づくよう展開し、ブランドを磨き続けてきたことが、同社における中国市場の成長を支えた要因の一つであると分析した。

その後前田氏からは、同社による今後の中国市場の展開指針や米國・ヘアエッセンシャル社買取時の裏話など、日本を代表する企業の経営者ならではの貴重な内容についてもエピソードが語られた。

同研究会は広く一般市民が聴講できるよう毎回無料で行われ、生きた経営理論や経営哲学が学べる貴重な機会となっている。次回は2月15日、千代田化工建設株式会社（本社・横浜市）の元社長・北川正人氏による講演が予定されている。

2012年2月1日（水）発行 大学新聞 2面